

GA-G41MT-D3

LGA775 ソケットマザーボード

(Intel® Core™ プロセッサファミリー/Intel® Pentium® プロセッサ
ファミリー/Intel® Celeron® プロセッサファミリー用)

ユーザーズマニュアル

改版 1302

12MJ-G41MTD3-1302R

Declaration of Conformity

Ver. 1.0, March 2000, CE Marking Directive

G.B.T. Technology Trading GmbH
Bülowkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Motherboard

GA-G41MT-D3

Is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)

In accordance with 2004/108/EC EMC Directive

EN 55011

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific, and medical (ISM) high frequency equipment

EN 55013

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment

EN 55014-1

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus

EN 55015

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires

EN 55020

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment

EN 55022

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment

DIN VDE 0855

Cabled distribution systems: Equipment for receiving and/or distributing sound and television signals part 10 part 12



(IEC conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the aeronautical safety standards in accordance with ICAO Doc 9750-9/EC

EN 60065

Safety requirements for mains-operated electric and related apparatus for household and similar electrical appliances

EN 60335

Safety requirements for electrical appliances

Manufacturer/importer

Signature: Jimmy Huang

(Stamp)

Date: May 12, 2010

Name: Jimmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/(818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-G41MT-D3

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: May 12, 2010

著作権

© 2010 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- GIGABYTE の固有な機能の使用法については、当社Webサイトの Support&Downloads\Motherboard\Technology ガイドの情報をお読みになるかダウンロードしてください。

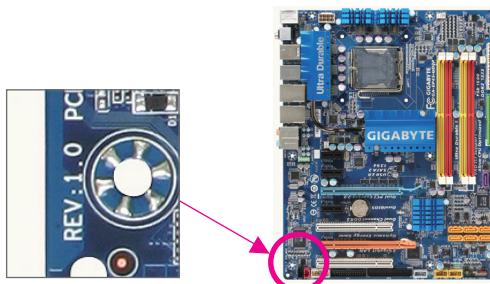
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

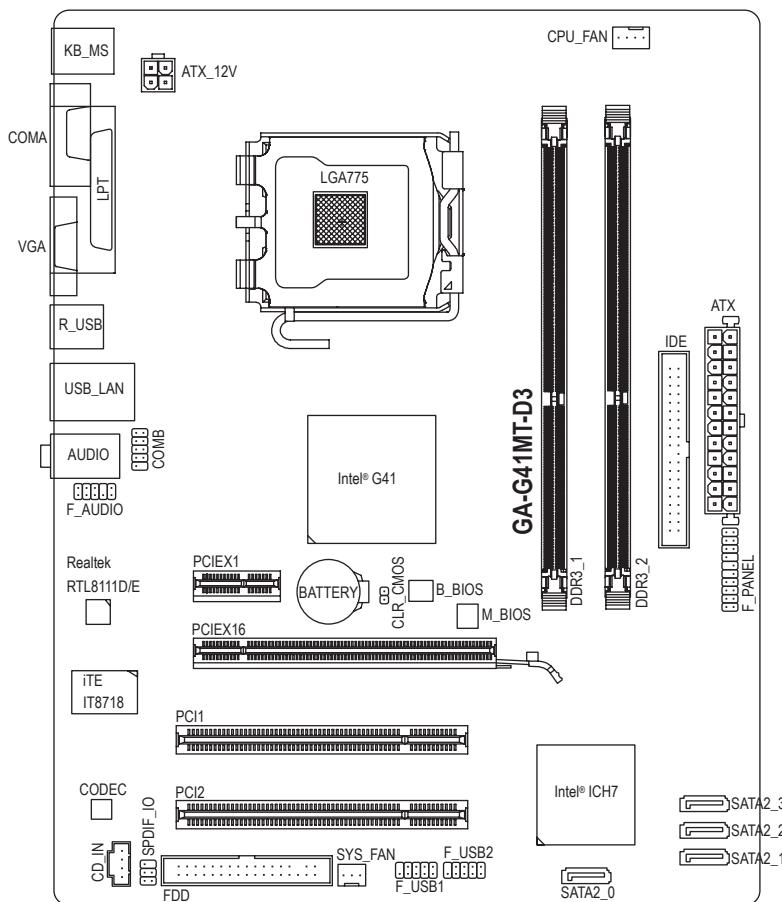
例：



目次

GA-G41MT-D3 マザーボードのレイアウト	5
第 1 章 ハードウェアの取り付け	6
1-1 取り付け手順	6
1-2 製品の仕様	7
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	9
1-3-1 CPU を取り付ける	9
1-4 メモリの取り付け	10
1-4-1 デュアルチャネルのメモリ設定	10
1-5 拡張カードの取り付け	10
1-6 背面パネルのコネクタ	11
1-7 内部コネクタ	12
第 2 章 BIOS セットアップ	21
2-1 起動スクリーン	21
2-2 メインメニュー	21
2-3 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)	22
2-4 Standard CMOS Features	28
2-5 Advanced BIOS Features	29
2-6 Advanced Chipset Features	31
2-7 Integrated Peripherals	32
2-8 Power Management Setup	34
2-9 PnP/PCI Configurations	36
2-10 PC Health Status	37
2-11 Load Fail-Safe Defaults	38
2-12 Load Optimized Defaults	38
2-13 Set Supervisor/User Password	39
2-14 Save & Exit Setup	39
2-15 Exit Without Saving	40
第 3 章 ドライバのインストール	40
3-1 Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール)	40
規制準拠声明	41

GA-G41MT-D3 マザーボードのレイアウト



ボックスの内容

- GA-G41MT-D3 マザーボード
- マザーボードドライバディスク
- ユーザーズマニュアル
- IDE ケーブル (x1)
- SATA ケーブル (x2)
- I/O シールド

上のボックスの内容は参考専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付ける前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いてAC電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電(ESD)リストラップを着用することをお勧めします。ESDリストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まずは金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、これを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、けがにつながる恐れがあります。
- 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して疑問な点がございましたら、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none">◆ LGA 775 パッケージの Intel® Core™ 2 Extreme プロセッサ/ Intel® Core™ 2 Quad プロセッサ/Intel® Core™ 2 Duo プロセッサ/ Intel® Pentium® プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサ (LGA 775/パッケージ同梱) (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。◆ L2 キャッシュは CPU で異なります
 フロントサイド バス	<ul style="list-style-type: none">◆ 1333/1066/800 MHz FSB
 チップセット	<ul style="list-style-type: none">◆ ノースブリッジ: Intel® G41 Express チップセット◆ サウスブリッジ: Intel® ICH7
 メモリ	<ul style="list-style-type: none">◆ 最大 4GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット (x2)^(注1)◆ デュアルチャンネルメモリーアクテクチャ◆ DDR3 1066/800 MHz メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについて は、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none">◆ ノースブリッジに統合:<ul style="list-style-type: none">- D-Sub ポート (x1)
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek ALC888B コーデック◆ ハイディフィニションオーディオ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル^(注2)◆ S/PDIF イン/アウトのサポート◆ CD インのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek RTL8111D/E チップ (10/100/1000 Mbit) (x1)
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none">◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で実行◆ PCI Express x1 スロット (x1)◆ PCI スロット (x2)
 ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">◆ サウスブリッジ:<ul style="list-style-type: none">- ATA-100/66/33 および 2 つの IDE デバイスをサポートする IDE コネクタ (x1)- 最大 4 つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする SATA 3Gb/s コネクタ (x4)◆ iTE IT8718 チップ:<ul style="list-style-type: none">- 最大 1 つのフロッピーディスクドライブをサポートするフロッピーディスクドライブコネクタ (x1)
 USB	<ul style="list-style-type: none">◆ サウスブリッジ:<ul style="list-style-type: none">- 最大 8 の USB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに 4 つ、内部 USB ヘッダに接続された USB ブラケットを介して 4 つ)
 内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none">◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1)◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1)◆ フロッピーディスクドライブコネクタ (x1)◆ IDE コネクタ (x1)◆ SATA 3Gb/s コネクタ (x4)◆ CPU ファンヘッダ (x1)◆ システムファンヘッダ (x1)◆ 前面パネルヘッダ (x1)◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1)◆ CD インコネクタ (x1)◆ S/PDIF イン/アウトヘッダ (x1)

	内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ クリアリング CMOS ジャンパ (x1)
	背面パネルのコネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボードポート (x1) ◆ PS/2 マウスポート (x1) ◆ パラレルポート (x1) ◆ シリアルポート (x1) ◆ D-Sub ポート (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x4) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x3) (ラインイン/ラインアウト/マイク)
	I/O コントローラ	◆ iTE IT8718
	ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU / システム温度検出 ◆ CPU / システムファン速度の検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU / システムファンエラー警告 ◆ CPU ファン速度コントロール^(注3)
	BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 8 Mbit フラッシュ (x2) ◆ ライセンスを受けた AWARD BIOS の使用 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.4, ACPI 1.0b
	固有の機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress BIOS Rescue のサポート ◆ Download Center のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ EasyTune のサポート^(注4) ◆ Easy Energy Saver のサポート^(注5) ◆ Time Repair のサポート ◆ Q-Share のサポート
	バンドルされた ソフトウェア	◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
	オペレーティングシステム	◆ Microsoft® Windows® 7/Vista/XP のサポート
	フォームファクタ	◆ マクロ ATX フォームファクタ、24.4cm x 19.4cm

(注1) Windows 32 ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB 以上の物理メモリを取り付けても、表示される実際のメモリサイズは 4 GB より少くなります。

(注2) 7.1 チャンネルオーディオを構成するには、フロントパネル経由で HD Audio 規格のポートに接続し、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。

(注3) CPU ファン速度コントロール機能がサポートされているかどうかは、取り付けた CPU クーラーによって異なります。

- (注4) EasyTune の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。
- (注5) ハードウェアの制限により、Easy Energy Saver のサポートを有効にするには、Intel® Core™ 2 Extreme/ Core™ 2 Quad/ Core™ 2 Duo/ Pentium Dual-Core/ Celeron Dual-Core/ Celeron 400 シリーズ CPU を取り付ける必要があります。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

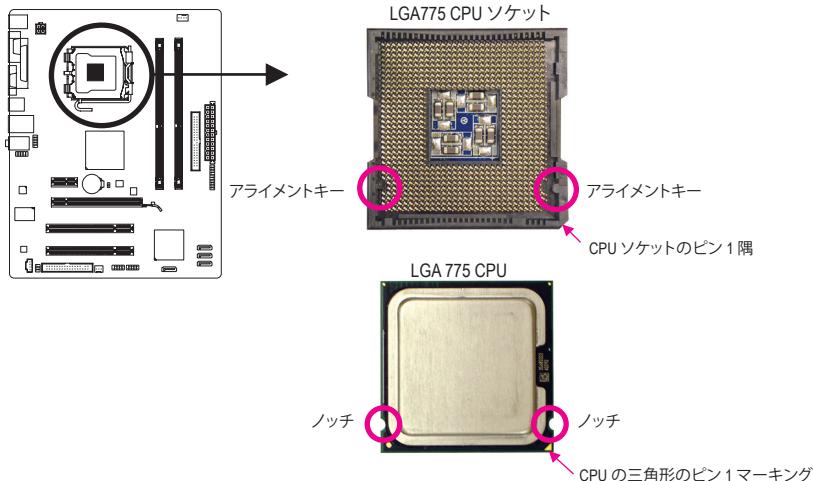


CPUを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
(最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPUを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPUのピン1を探します。CPUは間違った方向には差し込むことができません。(または、CPUの両側のノッチとCPUソケットのアライメントキーを確認します)。
- CPUの表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。
- CPUクーラーを取り付けない場合はコンピュータのパワーをオンにしないでください。CPUが損傷する原因となります。
- CPUの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPUを取り付ける

- A. マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは、絶対に確実な設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

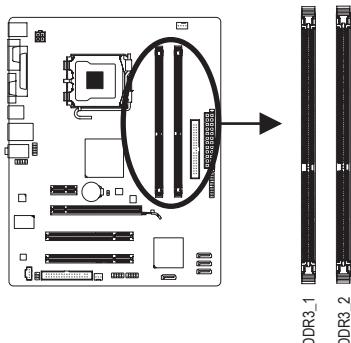
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードを有効にすると、元のメモリバンド幅が2倍になります。

2つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリソケットがあります。

► チャンネル0: DDR3_1

► チャンネル1: DDR3_2



チップセットの制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に以下のガイドラインをお読みください。

- DDR3メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを起動する場合には、同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。

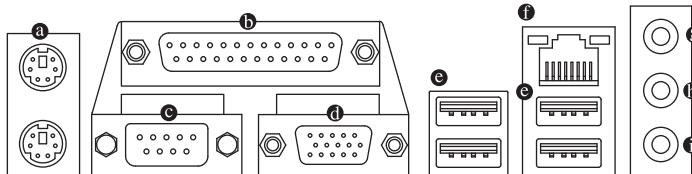
1-5 拡張カードの取り付け



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクタ



① PS/2 キーボードと PS/2 マウスポート

PS/2 マウスを上部ポート(緑)に、PS/2 キーボードを下部ポート(紫)に接続します。

② パラレルポート

パラレルポートを使ってプリンタ、スキャナなどのデバイスを接続します。パラレルポートはプリンタポートとも呼ばれます。

③ シリアルポート

シリアルポートを使ってマウス、モデムまたはその他の周辺機器などのデバイスを接続します。

④ D-Sub ポート

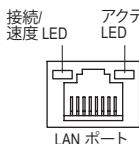
D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクタをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

⑤ USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑥ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED のステータスを説明しています。



接続/速度 LED

アクティビティ LED

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	LAN リンクは確立されていない

⑦ ラインインジャック(青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑧ ラインアウトジャック(緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。

⑨ マイクインジャック(ピンク)

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

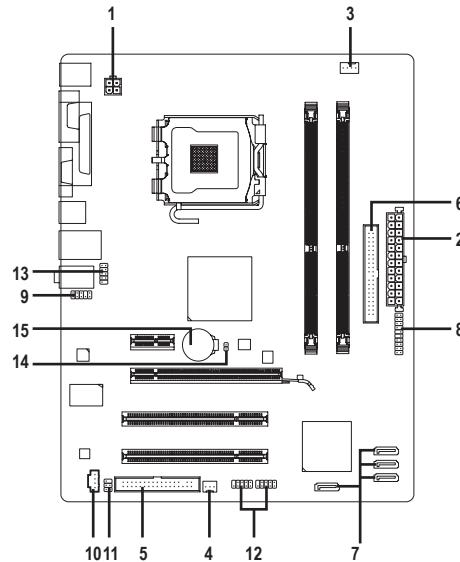


7.1 チャンネルオーディオを構成するには、フロントパネル経由で HD Audio 規格のポートに接続し、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外しているとき、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外しているとき、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。

1-7 内部コネクタ



1) ATX_12V	9) F_AUDIO
2) ATX	10) CD_IN
3) CPU_FAN	11) SPDIF_IO
4) SYS_FAN	12) F_USB1/F_USB2
5) FDD	13) COMB
6) IDE	14) CLR_CMOS
7) SATA2_0/1/2/3	15) BATTERY
8) F_PANEL	



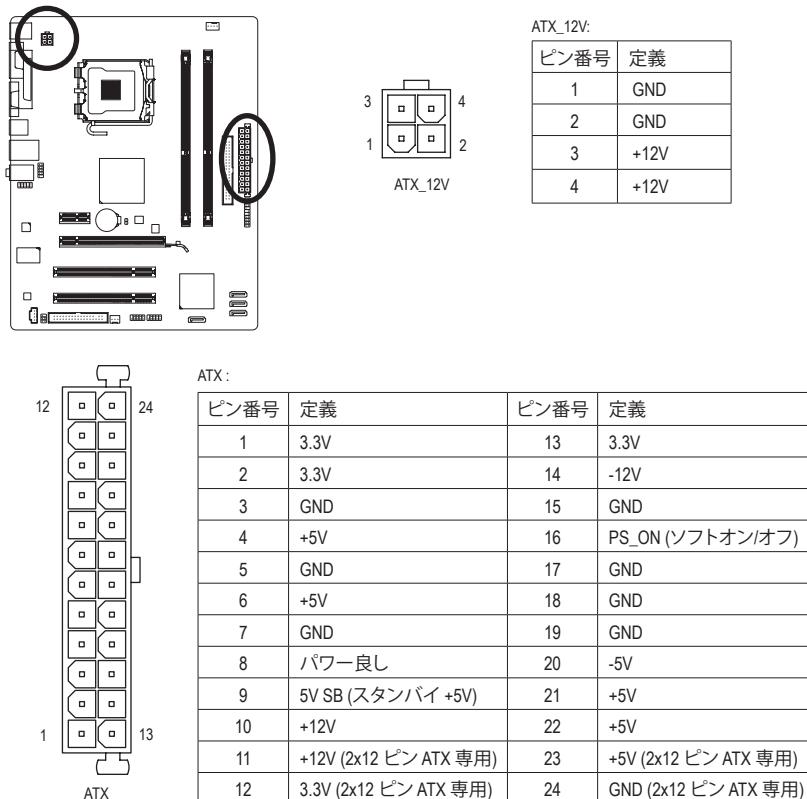
外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

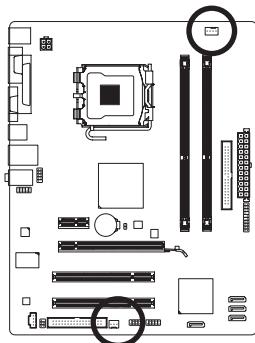
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、絶対に確実な設計が施されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには、4ピンCPUファンヘッダ(CPU_FAN)と3ピンシステムファンヘッダ(SYS_FAN)が搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、絶対確実な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。マザーボードはCPUファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載したCPUファンを使用する必要があります。最適な放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けるようにお勧めします。



CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御



SYS_FAN:

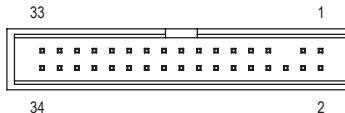
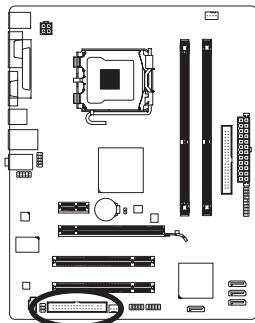
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知



- CPU: およびシステムが過熱しないように、ファンケーブルをファンヘッダに必ず接続してください。過熱すると、CPUが損傷したり、またはシステムがハングアップする結果となります。
- これらのファンヘッダは、設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンプのキャップを取り付けないでください。

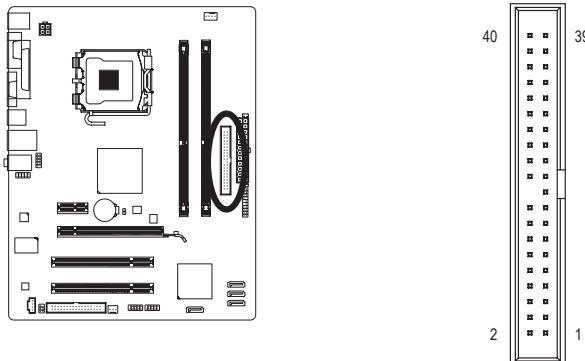
5) FDD (フロッピーディスクドライブコネクタ)

このコネクタは、フロッピーディスクドライブを接続するために使用されます。サポートされるフロッピーディスクドライブの種類は、次の通りです。360 KB, 720 KB, 1.2 MB, 1.44 MB、および 2.88 MB。フロッピーディスクドライブを接続する前に、コネクタとフロッピーディスクケーブルのピンを確認してください。ケーブルのピン1は、一般に異なる色のストライプで区別されています。オプションのフロッピーディスクドライブケーブルを購入する場合、販売代理店にお問い合わせください。



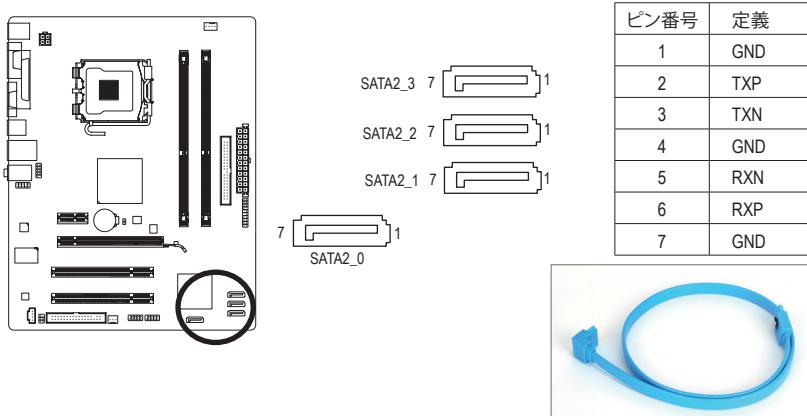
6) IDE (IDE コネクタ)

IDE コネクタは、ハードドライブや光ドライブなど最大 2 つの IDE デバイスをサポートします。IDE ケーブルを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探します。2 つの IDE デバイスを接続する場合、ジャンパとケーブル配線を IDE の役割に従って設定してください（たとえば、マスタまたはスレーブ）。（IDE デバイスのマスタ/スレーブ設定を実行する詳細については、デバイスマーカーの提供する使用説明書をお読みください）。



7) SATA2_0/1/2/3 (SATA 3Gb/s コネクタ)

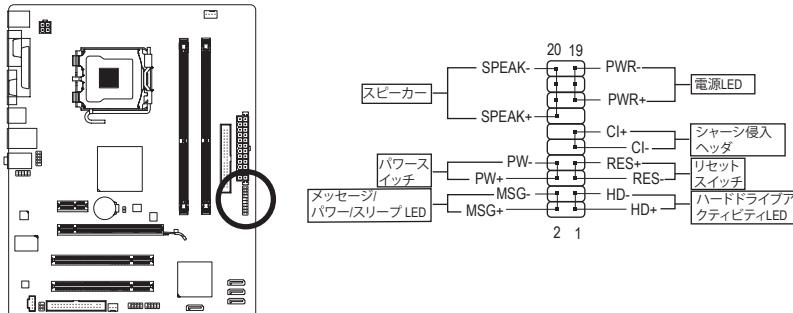
SATA コネクタは SATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。



SATA ケーブルの L 形状の端を SATA ハードドライブに接続してください。

8) F_PANEL (正面パネルヘッダ)

シャーシ前面パネルのパワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステムステータスインジケータを、以下のピン配列に従ってこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。



- MSG/PWR (メッセージ//パワー/スリープ LED):

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

- PW (パワースイッチ):

シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」、「電源管理のセットアップ」を参照してください)。

- SPEAK (スピーカー):

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。

- HD (IDE ハードドライブアクティビティ LED):

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きをおこなっているとき、LED はオンになります。

- RES (リセットスイッチ):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- CI (シャーシ侵入ヘッダ):

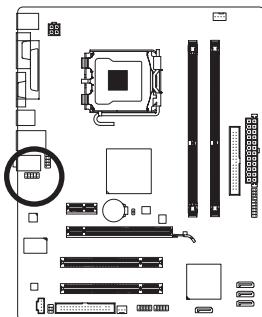
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intelハイデフィニションオーディオ(HD)とAC'97オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。



HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

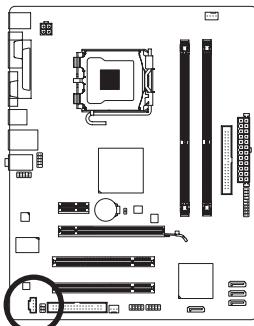
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC/パワー
4	NC
5	ラインアウト(右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト(左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、デフォルトで HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に存在します。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

10) CD_IN (CD 入力コネクタ)

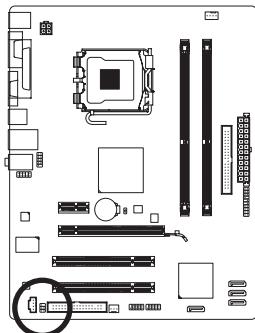
光ドライブに付属のオーディオケーブルをヘッダに接続することができます。



ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

11) SPDIF_IO (S/PDIF イン/アウトヘッダ)

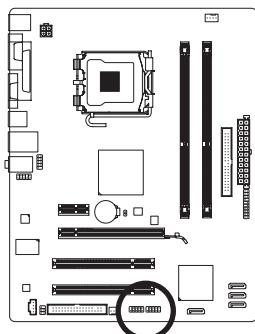
このヘッダは、デジタル S/PDIF イン/アウトをサポートします。オプションの S/PDIF インおよびアウトケーブルを通って、このヘッダはデジタルオーディオアウトをサポートするオーディオデバイスに、デジタルオーディオインをサポートするオーディオシステムに接続できます。オプションの S/PDIF インおよびアウトケーブルを購入する場合、販売代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源
2	ピンなし
3	S/PDIF
4	S/PDIFI
5	GND
6	GND

12) F_USB1/F_USB2 (USB ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB プラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB プラケットを購入する場合、販売代理店にお問い合わせください。



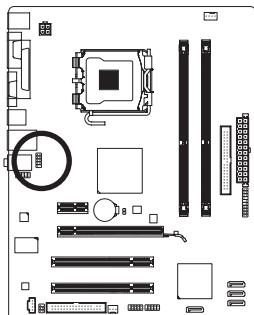
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 プラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB プラケットを取り付ける前に、USB プラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。

13) COMB (シリアルポートコネクタ)

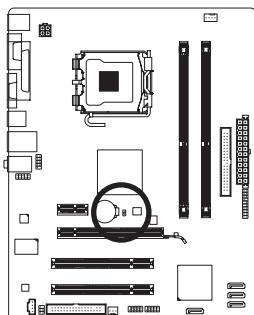
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	NDCD-
2	NSIN
3	NSOUT
4	NDTR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NRI-
10	ピンなし

14) CLR_CMOS (クリア CMOS ジャンパ)

このジャンパを使用して CMOS 値 (例えば、日付情報や BIOS 設定) を消去し、CMOS を工場出荷時の設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ジャンパキャップを 2 つのピンに取り付けて 2 つのピンを一時的にショートするか、ドライバーのような金属製物体を使用して 2 つのピンに数秒間触れます。



□ オープン: ノーマル

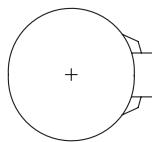
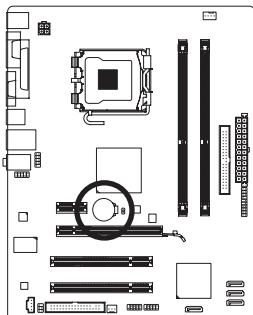
□ ショート: CMOS 値の消去



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS 値を消去した後コンピュータのパワーをオンにする前に、必ずジャンパからジャンパキャップを取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷する原因となります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をコードするか (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章、「BIOS セットアップ」を参照してください)。

15) BATTERY

バッテリは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリの電圧が低レベルまで下がつたらバッテリを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかったり失われる可能性があります。



バッテリを取り外すと、CMOS 値を消去できます。

1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリを同等のバッテリと交換します。バッテリを正しくないモデルと交換すると、爆発する危険があります。
- バッテリを自分自身で交換できない場合、またはバッテリのモデルがはっきり分からない場合、購入店または地域代理店にお問い合わせください。
- バッテリを取り付けるとき、バッテリのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みバッテリは、地域の環境規制に従って処理する必要があります。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、パワーがオンになっているとき POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニューのオプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティを使用します。

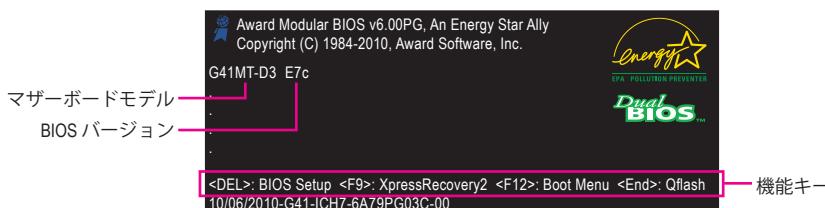
- Q-Flash で、オペレーティングシステムに入らずに、BIOS を素早く簡単にアップグレードまたはバックアップできます。
- @BIOS は Windows ベースのユーティリティで、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索してダウンロードしたり、BIOS を更新したりします。



- BIOS フラッシュは危険なため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生した場合、BIOS をフラッシュしないようにお勧めします。BIOS をフラッシュするには、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- システムが不安定になつたりその他の予期せぬ結果を引き起こすことがあるため、(必要でない場合) デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。設定を完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「ロード最適化既定値」セクションまたは第1章のバッテリ/CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください)。

2-1 起動スクリーン

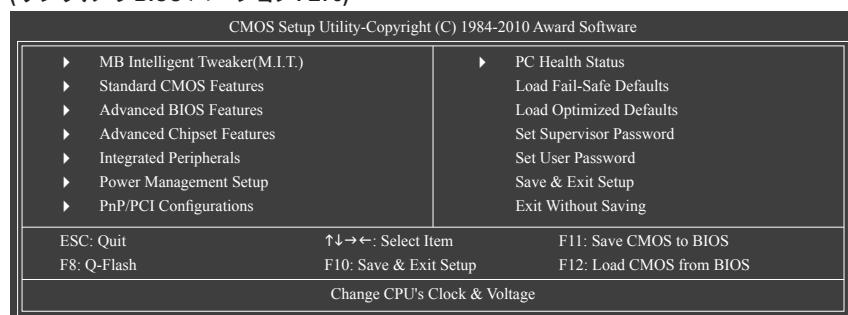
コンピュータが起動するとき、以下のスクリーンが表示されます。



2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter> を押してアイテムを受け入れるか、サブメニューに入ります。

(サンプルの BIOS バージョン: E7c)





- ・メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1>を押して詳細オプションにアクセスします。
- ・システムが安定しないとき、**Load Optimized Defaults** アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- ・この章で説明した BIOS セットアップメニューは、参照にすぎず BIOS のバージョンによって異なることがあります。

■ <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)

▶ F11 : Save CMOS to BIOS

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できます。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (デフォルトのプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。

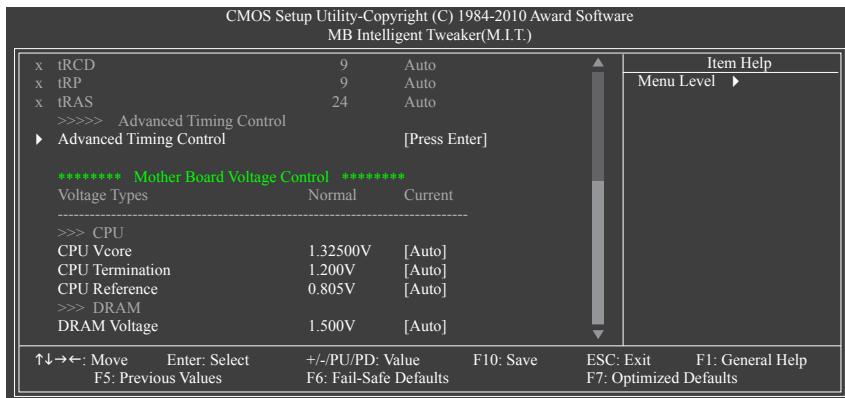
▶ F12 : Load CMOS from BIOS

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。

2-3 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software				Item Help	
MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)				Menu Level ▶	
Robust Graphics Booster	[Auto]				
CPU Clock Ratio ^(注)	[8X]				
Fine CPU Clock Ratio ^(注)	[+0.0]				
CPU Frequency	1.60GHz (200x8)				
***** Clock Chip Control *****					
>>>> Standard Clock Control					
CPU Host Clock Control	[Disabled]				
x CPU Host Frequency (Mhz)	333				
PCI Express Frequency (Mhz)	[Auto]				
>>>> Advanced Clock Control					
***** DRAM Performance Control *****					
Performance Enhance	[Standard]				
System Memory Multiplier	(SPD)	[Auto]			
Memory Frequency (Mhz)	1333	800			
DRAM Timing Selectable	(SPD)	[Auto]			
>>>> Standard Timing Control					
x CAS Latency Time	9	Auto			
↑↓→← : Move	Enter: Select	+/-PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults		F7: Optimized Defaults	

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。



! システムがオーバークロック/過電圧設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック/過電圧を間違って実行するとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果をまねくことがあるため、既定値設定を変更しないようお勧めします。(設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてください)。

☞ Robust Graphics Booster

R.G.B. (ロバストグラフィックスブースタ) により、グラフィックスチップとメモリのパフォーマンスが向上します。Auto により、BIOS はシステム設定に基づき R.G.B. モードを自動的に設定できます。オプションは、Auto (既定値)、Fast、Turbo です。

☞ CPU Clock Ratio (注)

取り付けた CPU に対してクロック比を変更します。
アンロックされたクロック比の CPU が取り付けられている場合のみ、アイテムが表示されます。

☞ Fine CPU Clock Ratio (注)

取り付けたCPUのクロック比を0.5増加します。
アンロックされたクロック比のあるCPUを取り付けた場合のみ、項目が表示されます。

☞ CPU Frequency

現在の CPU 周波数を表示します。

***** Clock Chip Control *****

>>> Standard Clock Control

☞ CPU Host Clock Control

CPU ホストクロックの制御の有効/無効を切り替えます。Enabled は、以下の CPU Host Frequency アイテムを設定します。注: オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20 秒待ってシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。(既定値: Disabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。

⌚ CPU Host Frequency (Mhz)

CPU ホスト周波数を手動で設定します。このアイテムは、**CPU Host Clock Control** オプションが有効になっている場合のみ設定可能です。調整可能な範囲は 100 MHz～1200 MHz です。
Important: CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定するように強くお勧めします。

⌚ PCI Express Frequency (Mhz)

PCIe クロック周波数を手動で設定します。調整可能な範囲は 90 MHz から 150 MHz までです。
Auto は PCIe クロック周波数を標準の 100 MHz に設定します。(既定値: Auto)

***** DRAM Performance Control *****

⌚ Performance Enhance

システムが 3 つの異なるパフォーマンスレベルで操作できるようにしています。

- ▶ Standard 基本パフォーマンスレベルでシステムを操作します。(既定値)
- ▶ Turbo 良好なパフォーマンスレベルでシステムを操作します。
- ▶ Extreme 最高のパフォーマンスレベルでシステムを操作します。

⌚ System Memory Multiplier (SPD)

システムメモリマルチプライヤを設定します。オプションは CPU FSB に依存します。**Auto** は、メモリの SPD および **(G) MCH Frequency Latch** データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)

⌚ Memory Frequency (Mhz)

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **CPU Host Frequency (Mhz)** および **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

⌚ DRAM Timing Selectable (SPD)

Manual (手動) は、以下の DRAM タイミング制御をすべて設定します。オプション: Auto (既定値), Manual (手動)。

>>>> Standard Timing Control

⌚ CAS Latency Time

オプション: Auto (既定値)、4~11。

⌚ tRCD

オプション: Auto (既定値)、1~15。

⌚ tRP

オプション: Auto (既定値)、1~15。

⌚ tRAS

オプション: Auto (既定値)、1~63。

>>>> Advanced Timing Control

⌚ Advanced Timing Control

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software Advanced Timing Control			
x tRRD	Auto	Item Help	
x tWTR	Auto	Menu Level ►►	
x tWR	Auto		
x tRFC	Auto		
x tRTP	Auto		
x Command Rate (CMD)	Auto		
>>>> Channel A			
► Channel A Timing Settings	[Press Enter]		
► Channel A Driving Settings	[Press Enter]		
>>>> Channel B			
► Channel B Timing Settings	[Press Enter]		
► Channel B Driving Settings	[Press Enter]		
↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-PU/PD: Value	F10: Save
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults	ESC: Exit F1: General Help
			F7: Optimized Defaults

☞ **tRRD**

オプション: Auto (既定値)、1~15。

☞ **tWTR**

オプション: Auto (既定値)、1~31。

☞ **tWR**

オプション: Auto (既定値)、1~31。

☞ **tRFC**

オプション: Auto (既定値)、1~255。

☞ **tRTP**

オプション: Auto (既定値)、1~15。

☞ **Command Rate(CMD)**

オプション: Auto (既定値)、1~3。

>>>> **Channel A/B**

☞ **Channel A/B Timing Settings**

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software Channel A/B Timing Settings			
x Static tRead Value	Auto	Item Help	
x tRD Phase0 Adjustment	Auto	Menu Level ►►	
x tRD Phase1 Adjustment	Auto		
x tRD Phase2 Adjustment	Auto		
x tRD Phase3 Adjustment	Auto		
x Trd2rd(Different Rank)			
x Twr2wr(Different Rank)	Auto		
x Twr2rd(Different Rank)	Auto		
x Trd2wr(Same/Diff Rank)	Auto		
x DIMM1 Clock Skew Control			
x DIMM2 Clock Skew Control	Auto		
x DDR Write Leveling	Auto		
x DDR Write Training	Auto		
↑↓←→: Move	Enter: Select	+/-PU/PD: Value	F10: Save
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults	ESC: Exit F1: General Help
			F7: Optimized Defaults

☞ **Static tRead Value**

オプション: Auto (既定値)、1~15。

- ☞ **tRD Phase0 Adjustment**
オプション: Auto (既定値)、0-Normal、1-Advanced。
- ☞ **tRD Phase1 Adjustment**
オプション: Auto (既定値)、0-Normal、1-Advanced。
- ☞ **tRD Phase2 Adjustment**
オプション: Auto (既定値)、0-Normal、1-Advanced。
- ☞ **tRD Phase3 Adjustment**
オプション: Auto (既定値)、0-Normal、1-Advanced。
- ☞ **Trd2rd(Different Rank)**
オプション: Auto (既定値)、1~15。
- ☞ **Twr2wr(Different Rank)**
オプション: Auto (既定値)、1~15。
- ☞ **Twr2rd(Different Rank)**
オプション: Auto (既定値)、1~15。
- ☞ **Trd2wr(Same/Diff Rank)**
オプション: Auto (既定値)、1~15。
- ☞ **DIMM1 Clock Skew Control**
オプション: Auto (既定値)、+800ps~700ps。
- ☞ **DIMM2 Clock Skew Control**
オプション: Auto (既定値)、+800ps~700ps。
- ☞ **DDR Write Leveling**
メモリーパラメータを微調整してメモリ互換性を拡張するかどうかを決定できます。
 - ▶ Auto BIOSにこの機能を有効にするかどうかを決定させます。(既定値)
 - ▶ Enabled この機能を有効にして、メモリー互換性を拡張します。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。
- ☞ **DDR Write Training**
メモリーパラメータを微調整してメモリ互換性を拡張するかどうかを決定できます。
 - ▶ Auto BIOSにこの機能を有効にするかどうかを決定させます。(既定値)
 - ▶ Enabled この機能を有効にして、メモリー互換性を拡張します。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ **Channel A/B Driving Settings**

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software		
Channel A/B Driving Settings		
		Item Help
x Driving Strength Profile	Auto	Menu Level ►►
x Data Driving Pull-Up Level	Auto	
x Cmd Driving Pull-Up Level	Auto	
x Ctrl Driving Pull-Up Level	Auto	
x Clk Driving Pull-Up Level	Auto	
x Data Driving Pull-Down Level	Auto	
x Cmd Driving Pull-Down Level	Auto	
x Ctrl Driving Pull-Down Level	Auto	
x Clk Driving Pull-Down Level	Auto	
↑↓→←: Move	Enter: Select	+/-PU/PD: Value
F5: Previous Values		F10: Save
		ESC: Exit
		F1: General Help
		F7: Optimized Defaults

- ☞ **Driving Strength Profile**
オプション: Auto (既定値)。
- ☞ **Data Driving Pull-Up Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Cmd Driving Pull-Up Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Ctrl Driving Pull-Up Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Clk Driving Pull-Up Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Data Driving Pull-Down Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Cmd Driving Pull-Down Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Ctrl Driving Pull-Down Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。
- ☞ **Clk Driving Pull-Down Level**
オプション: Auto (既定値)、+8~-7。

***** Mother Board Voltage Control *****

>>> CPU

- ☞ **CPU Vcore**
デフォルトは Auto です。
 - ☞ **CPU Termination**
デフォルトは Auto です。
 - ☞ **CPU Reference**
デフォルトは Auto です。
- >>> DRAM
- ☞ **DRAM Voltage**
デフォルトは Auto です。

2-4 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Tue, Oct 6 2010	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ▶
► IDE Channel 0 Master	[None]	
► IDE Channel 0 Slave	[None]	
► IDE Channel 2 Master	[None]	
► IDE Channel 2 Slave	[None]	
► IDE Channel 3 Master	[None]	
► IDE Channel 3 Slave	[None]	
Drive A	[1.44M, 3.5"]	
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	2012M	
Total Memory	2014M	
↑↓←→: Move	+/-PU/PD: Value	F10: Save
F5: Previous Values	F6: Fail-Safe Defaults	ESC: Exit
		F1: General Help
		F7: Optimized Defaults

⌚ Date (mm:dd:yy)

システムの日付を設定します。

⌚ Time (hh:mm:ss)

システムの時刻を設定します。

⌚ IDE Channel 0, 2, 3 Master/Slave

► IDE HDD自動検出、IDE自動検出

このチャンネルの IDE/SATA デバイスのパラメータを自動検出するには、<Enter> を押してください。

► IDEチャンネル0マスター/スレーブ、拡張IDEドライブ

以下の 3 つの方法のいずれかを使用して、IDE/SATA デバイスを設定します：

- Auto POST 中に、BIOS により IDE/SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None IDE/SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。
- Manual ハードドライブのアクセスモードが **CHS** に設定されているとき、ハードドライブの仕様を手動で入力します。(IDE Channel 0 Master/Slave の場合のみ。)

► Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。(既定値: Auto)

以下のフィールドには、お使いのハードドライブの仕様が表示されます。パラメータを手動で入力する場合、ハードドライブの情報を参照してください。

► Capacity 現在取り付けられているハードドライブのおおよその容量。

► Cylinder シリンドー数。

► Head ヘッド数。

► Precomp 事前補正の書き込みシリンド。

► Landing Zone ランディングゾーン。

► Sector セクタ数。

⌚ Drive A

システムに取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを選択します。フロッピーディスクドライブを取り付けていない場合、このアイテムを **None** に設定します。オプションは、None (既定値)、360K/5.25"、1.2M/5.25"、720K/3.5"、1.44M/3.5"、2.88M/3.5"です。

☞ Floppy 3 Mode Support

取り付けられたフロッピーディスクドライブが3モードのフロッピーディスクドライブであるか、日本の標準フロッピーディスクドライブであるかを指定します。オプションは、Disabled (既定値)、ドライブ A です。

☞ Halt On

システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。

オプション:[All Errors], [No Errors], [All, But Keyboard] (既定値), [All, But Diskette], [All, But Disk/Key].

☞ Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

2-5 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software Advanced BIOS Features		
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	Item Help
Quick Boot	[Disabled]	Menu Level ▶
First Boot Device	[Floppy]	
Second Boot Device	[Hard Disk]	
Third Boot Device	[CDROM]	
Password Check	[Setup]	
HDD S.M.A.R.T. Capability	[Enabled]	
CPU Multi-Threading ^(注)	[Enabled]	
Limit CPUID Max. to 3 ^(注)	[Disabled]	
No-Execute Memory Protect ^(注)	[Enabled]	
CPU Enhanced Halt (C1E) ^(注)	[Enabled]	
C2/C2E State Support ^(注)	[Disabled]	
CPU Thermal Monitor 2(TM2) ^(注)	[Enabled]	
CPU EIST Function ^(注)	[Enabled]	
Virtualization Technology ^(注)	[Enabled]	
Delay For HDD (Secs)	[0]	
Backup BIOS Image to HDD	[Disabled]	
↑↓←: Move Enter: Select F5: Previous Values		
+/-/PU/PD: Value F6: Fail-Safe Defaults		
F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
	F7: Optimized Defaults	

☞ Hard Disk Boot Priority

取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。

☞ Quick Boot

クリックブート機能の有効/無効を切り替えてシステム起動プロセスを加速すると、オペレーティングシステムに入るまでの待機時間を短縮し、毎日の作業効率が大幅に向上します。(既定値: Disabled)

☞ First/Second/Third Boot Device

使用可能なデバイスから起動順序を指定します。

☞ Password Check

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Set Supervisor/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。

(既定値)

▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **HDD S.M.A.R.T. Capability**

ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポート・テクノロジー) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み/書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニターティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値: Disabled)

☞ **CPU Multi-Threading^(注)**

マルチコアテクノロジに対応した Intel® CPU を使用しているとき、すべての CPU コアとマルチスレッディングを有効にするかどうかを決定します。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ作動します。

- ▶ Enabled すべての CPU コアとマルチスレッディング機能を有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled 1 つの CPU コアのみを有効にします。

☞ **Limit CPUID Max. to 3^(注)**

CPUID の最大値を制限するかどうかを決定します。Windows XP オペレーティングシステムの場合このアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムの場合このアイテムを **Enabled** に設定します。(既定値: Disabled)

☞ **No-Execute Memory Protect^(注)**

Intel Execute Disable Bit 機能の有効/無効を切り替えます。この機能により、コンピュータの保護を強化し、そのサポートされるソフトウェアやシステムで作業しているとき、ウイルスや悪意のあるバッファオーバーフロー攻撃への露出を低減することができます。(既定値: Enabled)

☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)^(注)**

Intel CPU Enhanced Halt (C1E) 機能、つまりシステム停止状態時の CPU 省電力機能の有効/無効を切り替えます。有効に設定されているとき、システム停止状態の間 CPU のコア周波数と電圧を下げて消費電力を抑えます。(既定値: Enabled)

☞ **C2/C2E State Support^(注)**

システムが停止状態になっているとき、CPU が C2/C2E モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧はシステムの停止状態の間削減され、消費電力を抑えます。(既定値: Disabled)

☞ **CPU Thermal Monitor 2 (TM2)^(注)**

Intel CPU Thermal Monitor (TM2) 機能、つまり CPU の過熱保護機能の有効/無効を切り替えます。有効に設定されているとき、CPU が過熱しているとき CPU のコア周波数と電圧を下げます。(既定値: Enabled)

☞ **CPU EIST Function^(注)**

Intel SpeedStep Technology (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU ローディングにより、Intel® EIST テクノロジは CPU 電圧とコア周波数を動的にかつ効率的に下げて平均の消費電力と熱発生量を抑えます。(既定値: Enabled)

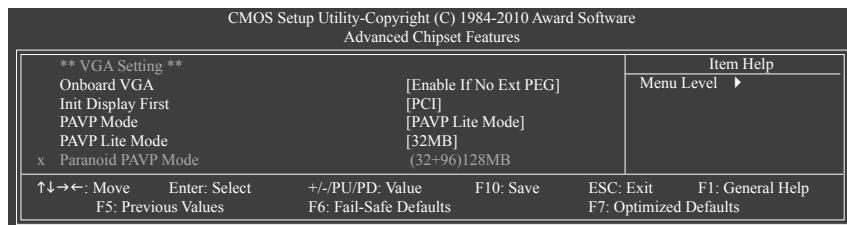
☞ **Virtualization Technology^(注)**

Intel 仮想化テクノロジの有効/無効を切り替えます。Intel 仮想化テクノロジによって強化された仮想化により、プラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行することができます。仮想化では、1 つのコンピュータシステムが複数の仮想システムとして機能します。(既定値: Enabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Delay For HDD (Secs)**
システム起動時にハードドライブを初期化するために、BIOS 用の遅延時間を設定します。
調整可能な範囲は 0 から 15 秒までです。(既定値: 0)
- ☞ **Backup BIOS Image to HDD**
BIOS 画像ファイルをハードドライブにコピーします。システム BIOS が破損した場合、この画像ファイルから回復されます。(既定値: Disabled)

2-6 Advanced Chipset Features



- ☞ **Onboard VGA**
オンボード VGA 機能の有効/無効を切り替えます。
▶ **Enable If No Ext PEG**
PCI Express VGA カードが取り付けられていない場合のみ、オンボード VGA をアクティブにします。(既定値)
▶ **Always Enable**
PCI Express カードが取り付けられているにせよ、常にオンボード VGA をアクティブにします。デュアル表示設定をセットアップする場合、このアイテムを **Always Enable** (常に有効にする) に設定してください。
- ☞ **Init Display First**
取り付けた PCI グラフィックスカード、PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
▶ **PCI** 最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。(既定値)
▶ **Onboard** 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
▶ **PEG** 最初のディスプレイとして PCI Express グラフィックスカードを設定します。
- ☞ **PAVP Mode**
PAVP モードの有効または無効。HDCP コンテンツを再生したい場合、この機能を有効にします。PAVP モードでは、コンテンツの保護改善や特別コンテンツ再生 (ブルーレイディスクなど) の増強条件をサポートすることができます。
▶ **Disabled** この機能を無効にします。
▶ **PAVP Lite Mode** 圧縮ビデオの暗号化のためのバッファメモリサイズを指定します。(既定値)
▶ **Paranoid PAVP** 起動中に 96 MB のシステムメモリを保持します。このメモリは、オペレーティングシステムからは見えないので、ユーザー アプリケーションには使用できません。Windows Vista の Aero (DWM) は、このモードで常にオフになります。

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ PAVP Lite Mode

このアイテムは、PAVP Mode オプションが PAVP Lite Mode になっている場合にのみ構成可能です。オプション: 32MB (既定値)、48MB、64MB、128MB、256MB。

☞ Paranoid PAVP Mode

このアイテムは、PAVP Mode オプションが Paranoid PAVP になっている場合にのみ構成可能です。

オプション: (32+96)128MB (既定値)、(48+96)160MBに丸め、(64+96)160MB、(128+96)224MB、(256+96)352MB。

下表には、PAVP Lite およびパラノイドモードでサポートされる機能を示したものです。

機能	PAVP Lite	PAVP Paranoid
圧縮ビデオバッファが暗号化されています	はい	はい
ハードウェア 128 ビット AES 解読	はい	はい
保護されているメモリ (起動中に保持された 96 MB)	いいえ	はい

2-7 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software
Integrated Peripherals

		Item Help	
		Menu Level ▶	
	On-Chip Primary PCI IDE	[Enabled]	
	On-Chip SATA Mode	[Auto]	
x	PATA IDE Set to	Ch.0 Master/Slave	
	SATA Port 0/2 Set to	Ch.2 Master/Slave	
	SATA Port 1/3 Set to	Ch.3 Master/Slave	
	Azalia Codec	[Auto]	
	Onboard H/W LAN	[Enabled]	
	Green LAN	[Disabled]	
▶	SMART LAN	[Press Enter]	
	Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
	Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
	Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]	
	Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
	Parallel Port Mode	[SPP]	
	USB 1.0 Controller	[Enabled]	
	USB 2.0 Controller	[Enabled]	
	USB Keyboard Support	[Disabled]	
	USB Mouse Support	[Disabled]	
	USB Storage Function	[Enabled]	
↑↓←→: Move		Enter: Select	+/-PU/PD: Value
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Defaults	F10: Save
		ESC: Exit	F1: General Help
		F7: Optimized Defaults	

☞ On-Chip Primary PCI IDE

最初に統合した IDE コントローラを有効または無効にします。(既定値:Enabled)

☞ On-Chip SATA Mode

統合されたSATAコントローラを構成します。

▶ Disabled 統合された SATA コントローラを無効にします。

▶ Auto BIOS が、SATA デバイスを **Combined** (結合) または **Enhanced** (拡張) モードに設定しましょう。

オンボードSATAコントローラが自動的に **Combined** (結合) モードに構成された場合、必要に応じて手動で **Enhanced** (拡張) モードに再構成することができます。(既定値)

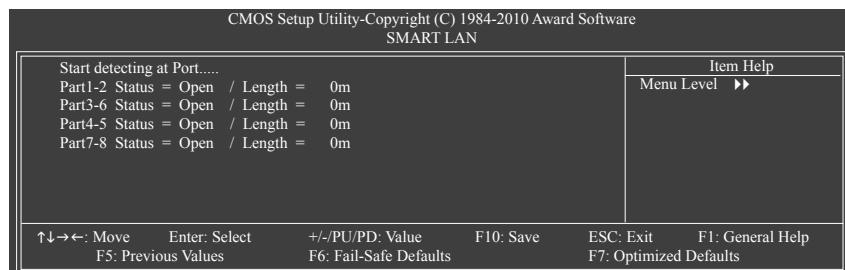
▶ Combined SATA デバイスをすべて、PATA モードで作動するように設定します。**Combined** (結合) モードでは、同時に使用されるための最高 4 つの ATA デバイスを許可します。すなわち、2つのPATAデバイスと2つの SATAデバイスが使用できます。

▶ Enhanced SATA デバイスをすべて、SATA モードで作動するように設定します。

▶ Non-Combined SATA デバイスをすべて、PATA モードで作動するように設定し、統合されたIDE コントローラを無効にします。

- ☞ **PATA IDE Set to**
このアイテムは、**On-Chip SATA Mode** が **Combined** (結合) の設定の場合にのみ構成可能です。
 - » Ch.0 Master/Slave IDE チャンネルを Ch. 0 Master/Slave (Ch. 0 マスター/スレーブ) に設定します。(既定値)
 - » Ch.1 Master/Slave IDE チャンネルを Ch. 1 Master/Slave (Ch. 1 マスター/スレーブ) に設定します。
- ☞ **SATA Port 0/2 Set to**
この値は、**On-Chip SATA Mode** と **PATA IDE Set to** の設定に影響されます。
PATA IDE Set to が **Ch. 1 Master/Slave** に構成されているとき、この機能は自動的に **Ch. 0 Master/Slave** に設定されます。
- ☞ **SATA Port 1/3 Set to**
この値は、**On-Chip SATA Mode** と **PATA IDE Set to** の設定に影響されます。
PATA IDE Set to が **Ch. 0 Master/Slave** に構成されているとき、この機能は自動的に **Ch. 1 Master/Slave** に設定されます。
- ☞ **Azalia Codec**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Auto)
オンボードオーディオを使用する代わりにサードパーティ製のアドインオーディオカードを取り付ける場合、このアイテムを **Disabled** に設定します。
- ☞ **Onboard H/W LAN**
オンボード LAN 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボード LAN を使用する代わりにサードパーティ製のアドインネットワークカードを取り付ける場合、このアイテムを **Disabled** に設定します。
- ☞ **Green LAN**
オンボード LAN 機能と **Green LAN** が有効になっていると、LAN ケーブルが接続されているかどうかが自動的に検出されます。LAN ケーブルが接続されていない場合、対応する LAN コントローラは自動的に無効にされます。(既定値:Disabled)

☞ **SMART LAN (LAN ケーブル診断機能)**



このマザーボードは、付属の LAN ケーブルのステータスを検出するために設計されたケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能は、配線問題を検出し、障害またはショートまでのおおよその距離を報告します。

☞ **Onboard LAN Boot ROM**

オンボード LAN チップに統合された起動 ROM をアクティブにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

- ☞ **Onboard Serial Port 1**
最初のシリアルポートの有効/無効を切り替え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプション: Auto, 3F8/IRQ4 (既定値), 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3, Disabled です。
- ☞ **Onboard Serial Port 2**
最初のシリアルポートの有効/無効を切り替え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプション: Auto, 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3 (既定値), 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3, Disabled。
- ☞ **Onboard Parallel Port**
オンボードパラレルポート(LPT)の有効/無効を切り替え、そのベースI/Oアドレスと対応する割り込みを指定します。オプション: 378/IRQ7 (既定値), 278/IRQ5, 3BC/IRQ7, Disabled。
- ☞ **Parallel Port Mode**
オンボード(LPT)ポート用のオペレーティングモードを選択します。オプション: SPP (標準パラレルポート)(既定値)、EPP (拡張パラレルポート)、ECP (拡張機能ポート)、ECP+EPP。
- ☞ **USB 1.0 Controller**
統合された USB 1.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
Disabled は、以下の USB 機能をすべてオフにします。
- ☞ **USB 2.0 Controller**
統合された USB 2.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **USB Keyboard Function**
MS-DOS で USB キーボードを使用できるようにします。(既定値:Disabled)
- ☞ **USB Mouse Function**
MS-DOS で USB マウスを使用できるようにします。(既定値:Disabled)
- ☞ **USB Storage Function**
POST の間 USB フラッシュドライブや USB ハードドライブを含め、USB ストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値:Enabled)

2-8 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software Power Management Setup		Item Help
ACPI Suspend Type	[S3(STR)]	
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-Off]	
PME Event Wake Up	[Enabled]	
Power On by Ring	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month) Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
HPET Support ^(注)	[Enabled]	
HPET Mode ^(注)	[32-bit mode]	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	
ErP Support	[Disabled]	
↑↓←→: Move F5: Previous Values	+/-PU/PD: Value F6: Fail-Safe Defaults	F10: Save ESC: Exit F1: General Help F7: Optimized Defaults

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートします。

☞ **ACPI Suspend Type**

システムがサスPENDに入るとき、ACPI スリープ状態を指定します。

- » **S1(POS)** システムは、ACPI S1 (パワーオンサスPEND) スリープ状態に入ります。S1 スリープ状態で、システムはサスPEND状態に入っていると表示され、低出力モードに留まります。システムは、いつでも復元できます。

- » **S3(STR)** システムは、ACPI S3 (RAM にサスPEND) スリープ状態に入ります (既定値)。S3 スリープ状態で、システムはオフとして表示され、S1 状態の場合より電力を消費しません。呼び起こしデバイスまたはイベントにより信号を送られると、システムは停止したときの状態に戻ります。

☞ **Soft-Off by PWR-BTTN**

パワーボタンを使用して、MS-DOS モードでコンピュータをオフにする方法を設定します。

- » **Instant-Off** パワーボタンを押すと、システムは直ちにオフになります。(既定値)
- » **Delay 4 Sec.** パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスPENDモードに入ります。

☞ **PME Event Wake Up**

PCI または PCIe デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起します。注: この機能を使用するには、+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。(既定値: Enabled)

☞ **Power On by Ring**

呼び起こし機能をサポートするモ뎀からの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起します。(既定値: Enabled)

☞ **Resume by Alarm**

希望するときにシステムのパワーをオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)
有効になっている場合、日付と時刻を以下のように設定してください:

- » **Date (of Month) Alarm** : 毎日または指定された日のそれぞれの時刻に、システムのパワーをオンにします。
- » **Time (hh: mm: ss) Alarm** : システムのパワーを自動的にオンにする時刻を設定します。
注: この機能を使用しているとき、不適切にオペレーティングシステムから遮断したり AC 電源からコードを抜かないでください。そうでないと、設定は有効になりません。

☞ **HPET Support** (注)

Windows 7/Vista オペレーティングシステムに対して HPET (高精度イベントタイマー) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ **HPET Mode** (注)

Windows 7/Vista オペレーティングシステムに対して、HPET モードを選択します。この項目は、**HPET Support** が有 **Enabled** に設定されている場合のみ構成可能です。(既定値: 32-bit mode)

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。(既定値: Disabled)

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- » **Double Click** PS/2マウスの左ボタンをダブルクリックしてシステムをオンにします。

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートされます。

☞ Power On By Keyboard

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。(既定値: Disabled)

注:+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供するATX 電源装置が必要です。

▶▶ Password 1~5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。

▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押すと、システムがオンになります。

☞ KB Power ON Password

Power On by Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ AC Back Function

AC 電力が失われたときから電力を回復した後のシステムの状態を決定します。

▶▶ Soft-Off AC 電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)

▶▶ Full-On AC 電力を回復した時点で、システムはオンになります。

▶▶ Memory AC 電力が回復した時点で、システムは電力を失う直前の状態に戻ります。

☞ ErP Support

S5 (シャットダウン) 状態の場合、システムで使用する電力を1W未満に抑えるかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

注:この項目が Enabled (有効) に設定されているとき、次の機能は使用できなくなります: PME イベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、呼び起こし LAN。

2-9 PnP/PCI Configurations

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software
PnP/PCI Configurations

PCI1 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI2 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ▶
 ↑↓↔: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

☞ PCI1/2 IRQ Assignment

▶▶ Auto BIOS は IRQ を最初/2番目の PCI スロットに自動的に割り当てます。(既定値)

▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を最初/2番目の PCI スロットに割り当てます。

2-10 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2010 Award Software		
PC Health Status		
		Item Help
Reset Case Open Status	[Disabled]	Menu Level ▶
Case Opened	No	
Vcore	1.140V	
DDR15V	1.540V	
+3.3V	3.328V	
+12V	12.048V	
Current CPU Temperature	32°C	
Current CPU FAN Speed	2872 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control	[Enabled]	

↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ Reset Case Open Status

前のシャーシ侵入ステータスの記録を保存または消去します。**Enabled** では前のシャーシ侵入ステータスのレコードを消去し、**Case Opened** フィールドが次に起動するとき “No” を表示します。(既定値: **Disabled**)

☞ Case Opened

マザーボード CI ヘッダに接続されたシャーシ侵入検出デバイスの検出ステータスを表示します。システムシャーシカバーを取り外すと、このフィールドは “Yes” を表示し、カバーを取り外さない場合、“No” を表示します。シャーシ侵入ステータスのレコードを消去するには、**Reset Case Open Status** を **Enabled** に設定し、設定を CMOS に保存し、システムを再起動します。

☞ Current Voltage(V) Vcore/DDR15V/+3.3V/+12V

現在のシステム電圧を表示します。

☞ Current CPU Temperature

現在の CPU 温度を表示します。

☞ Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)

現在の CPU/システムファン速度を表示します。

☞ CPU Warning Temperature

CPU 温度の警告しきい値を設定します。CPU 温度がしきい値を超えると、BIOS は警告音を出します。オプションは、Disabled (既定値)、60°C/140°F, 70°C/158°F, 80°C/176°F, 90°C/194°F です。

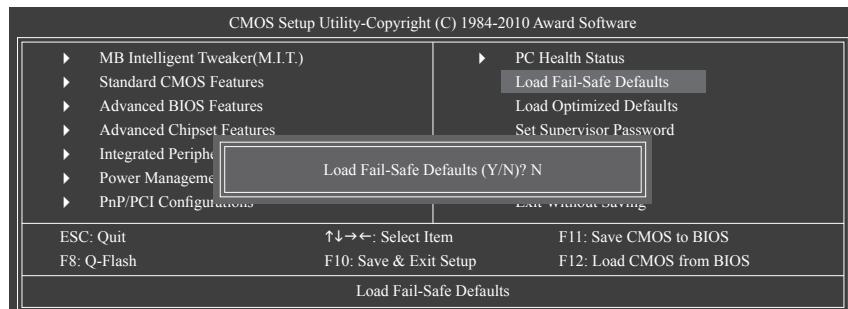
☞ CPU/SYSTEM FAN Fail Warning

CPU/システムファンが接続されていない場合またはエラーの場合、システムは警告音を出します。これが発生したときは、ファンの状態またはファン接続をチェックしてください。(既定値: **Disabled**)

☞ CPU Smart FAN Control

CPU ファン速度のコントロールの有効/無効を切り替えます。**Enabled** にすると、CPU ファンは CPU 温度によって異なる速度で作動できます。システム要件に基づき、EasyTune でファン速度を調整できます。無効にすると、CPU ファンは全速で作動します。(既定値: **Enabled**)

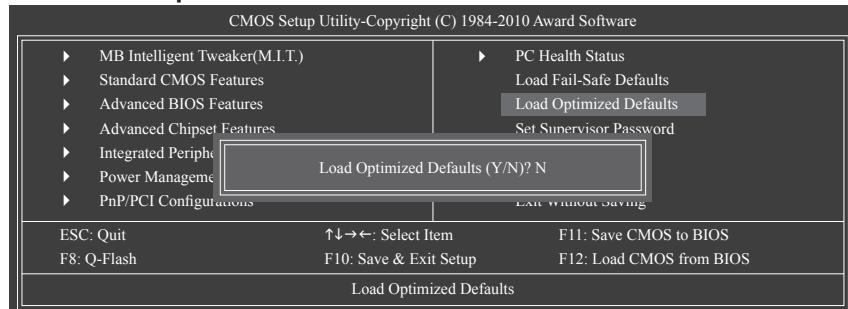
2-11 Load Fail-Safe Defaults



このアイテムで **<Enter>** を押し **<Y>** キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。

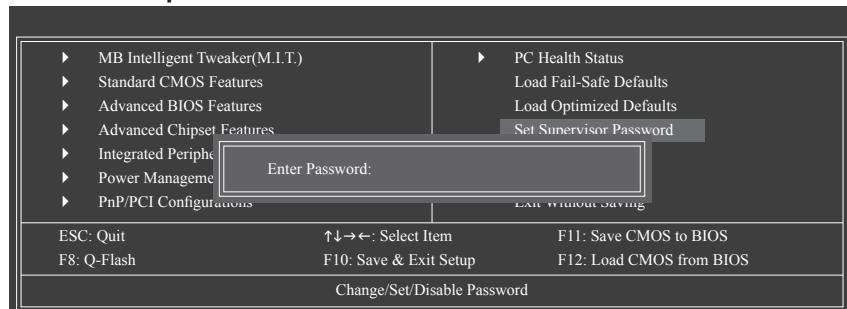
システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-12 Load Optimized Defaults



このアイテムで **<Enter>** を押し **<Y>** キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS 既定値設定により、システムは最適の状態で作動します。BIOS を更新した後、または CMOS 値を消去した後、最適化既定値を常にロードします。

2-13 Set Supervisor/User Password



このアイテムで **<Enter>** を押して 8 文字以内でパスワードを入力し、**<Enter>** を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、**<Enter>** を押します。

BIOS セットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

☞ Supervisor Password

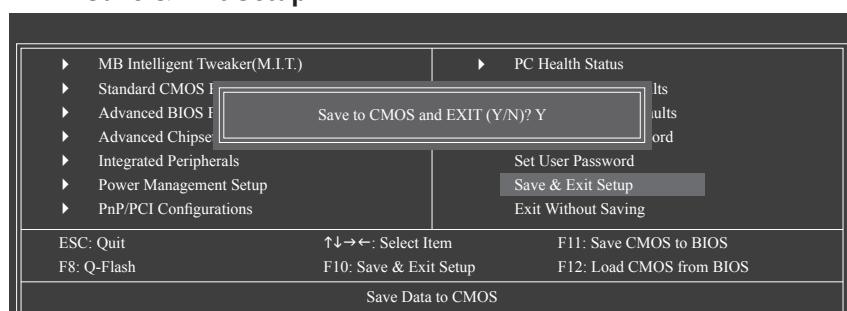
システムパスワードが設定され、**Advanced BIOS Features** で **Password Check** アイテムが **Setup** されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOS を変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。**Password Check** アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するとき、管理者パスワード (または、ユーザー/パスワード) を入力する必要があります。

☞ User Password

Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード (または、ユーザー/パスワード) を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザー/パスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

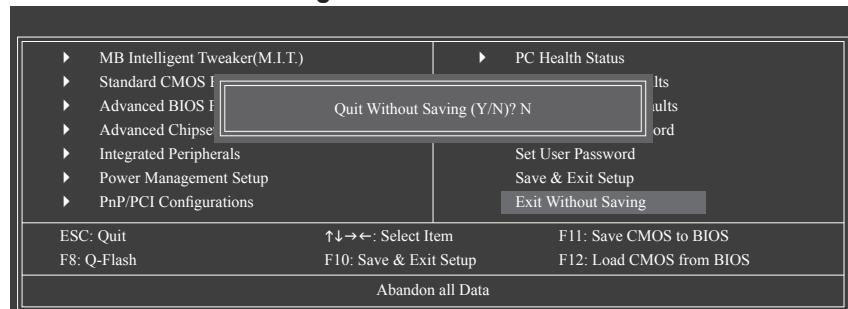
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで **<Enter>** を押しパスワードを要求されたとき、**<Enter>** を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-14 Save & Exit Setup



このアイテムで **<Enter>** を押し、**<Y>** キーを押します。これにより、CMOS が変更され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**<N>** または **<Esc>** を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-15 Exit Without Saving



このアイテムで **<Enter>** を押し、**<Y>** キーを押します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**<N>** または **<Esc>** を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

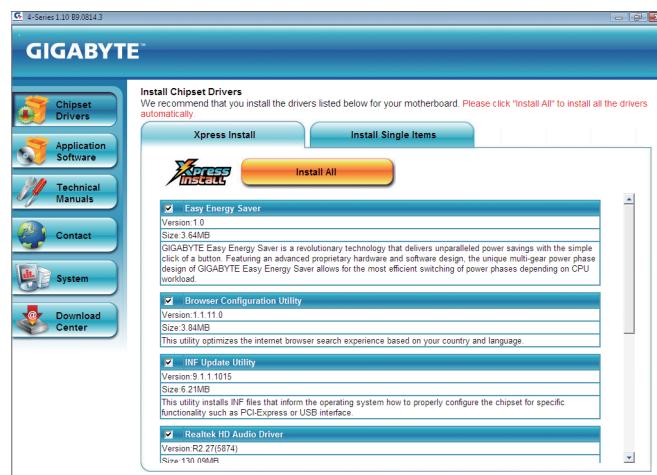
第3章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光ドライブに挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します)。

3-1 Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール)

ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Install All (すべてインストール) ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライバをインストールします。または「Install Single Items (单一インストール)」をクリックして、インストールするドライバを手動でインストールします。



規制準拠声明

規制通知

このドキュメントは当社の書面による許可なしにはコピーすることができません。また、その内容を第三者に提供したり不正な目的で使用することもできません。違反すると、起訴される場合があります。ここに含まれる情報は、印刷時点ですべての点において正確であったと信じています。しかし、GIGABYTE はこのテキストでの誤植や脱落に責任を負いません。また、このドキュメントの情報は将来予告なしに変更することがあります、GIGABYTEで必ず変更するということではありません。

環境保全への関与

すべてのGIGABYTE マザーボードは高性能であるだけでなく、欧州連合のRoHS(特定有害物質使用制限指令)およびWEEE(廃電気電子機器指令)環境指令、および世界のほとんどの安全要件を満たしています。有害物質が環境に廃棄されないように、また天然資源の使用を最大限に高めるために、GIGABYTEでは「使用期限の切れた」製品の材料を責任を持ってリサイクルしたり、再使用する方法について、次の情報を提供いたします。

有害物質の規制 (RoHS) 指令声明

GIGABYTE製品は有害物質 (Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB) を追加することは目的としていません。また、これらの有害物質から守るものではありません。部品とコンポーネントは RoHS 要件を満たすように、慎重に選択されています。さらに、GIGABYTE では国際的に禁止されている有毒化学物質を使用しない製品の開発にも引き続き努力を払っています。

廃電気電子機器 (WEEE) 指令への声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)指令から解釈して、国内法に従っています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取扱、収集、リサイクルおよび廃棄を指定しています。指令に基づき、使用済み機器にはマークを付け、分別収集し、適切に廃棄する必要があります。

WEEE 記号声明



製品やそのパッケージに付けられた以下の記号は、本製品を他の廃棄物と一緒に処分してはいけないことを示しています。代わりに、ごみ収集センターに持ち込んで、処理、収集、リサイクルおよび廃棄する必要があります。廃棄時に廃棄機器の分別収集とリサイクルをすることで、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するようにリサイクルされます。廃棄機器のリサイクル場所の詳細については、地方自治体に、また環境に安全なリサイクルの詳細については、家庭廃棄物処理サービスまたは製品のご購入店にお問い合わせください。

- お使いの電気電子機器の寿命が切れた場合、地域のごみ収集センターに「持ち込んで」リサイクルしてください。
- 「寿命の切れた」製品のリサイクル、再使用についてさらにアドバイスが必要な場合、製品のユーザーズマニュアルに一覧したサービスセンターまでご連絡ください。適切な方法をお知らせいたします。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用したり、本製品を配送したときに梱包していた内部と外部のパッケージ(輸送用コンテナを含む)をリサイクルしたり、使用済みパッティを適切に廃棄またはリサイクルすることにより、他の環境に優しい行動を取られることをお勧めします。お客様の支援があれば、電気電子機器の生産に必要な天然資源の量を削減し、「寿命の切れた」製品の処分用のごみ廃棄場の使用を最小限に抑え、有害の危険性のある物質を環境に流入しないようにし適切に処分することにより生活の質を改善することができます。

中国の危険有害物質の規制表

次の表は、中国の危険有害物質の規制(中国RoHS)要件に準拠して供給されています：



关于符合中国《电子信息产品污染控制管理办法》的声明
Management Methods on Control of Pollution from Electronic Information Products
(China RoHS Declaration)

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量
Hazardous Substances Table

部件名称 (Parts)	有毒有害物质或元素 (Hazardous Substances)					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
PCB板 PCB	○	○	○	○	○	○
结构件及风扇 Mechanical parts and Fan	×	○	○	○	○	○
芯片及其他主动零件 Chip and other Active components	×	○	○	○	○	○
连接器 Connectors	×	○	○	○	○	○
被动电子元器件 Passive Components	×	○	○	○	○	○
线材 Cables	○	○	○	○	○	○
焊接金属 Soldering metal	○	○	○	○	○	○
助焊剂, 散热膏, 标签及其他耗材 Flux, Solder Paste, Label and other Consumable Materials	○	○	○	○	○	○
○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006标准规定的限量要求以下。 Indicates that this hazardous substance contained in all homogenous materials of this part is below the limit requirement SJ/T 11363-2006						
×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006标准规定的限量要求。 Indicates that this hazardous substance contained in at least one of the homogenous materials of this part is above the limit requirement in SJ/T 11363-2006						
对销售之日的所售产品，本表显示我公司供应链的电子信息产品可能包含这些物质。注意：在所售产品中可能会也可能不会含有所有所列的部件。 This table shows where these substances may be found in the supply chain of our electronic information products, as of the date of the sale of the enclosed products. Note that some of the component types listed above may or may not be a part of the enclosed product.						



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000, FAX: +886-2-8912-4003

Tech. and Non-Tech. Support (Sales/Marketing) : <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEB address (English): <http://www.gigabyte.com>

WEB address (Chinese): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE web サイトにアクセスし、web サイトの右下の言語リストで言語を選択してください。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング)質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
にリンクしてから、言語を選択し、システムに入ります。

